

『時事直言』 No.1085 2016年7月5日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>

FAX：03-3955-6466



時事評論家 増田俊男

EU（欧州連合）の終わりの始まり

もうじき皆様のお手元にお届けする「小冊子」(Vol.80)で詳しく解説しているが、近い将来 EU とユーロ共通通貨体制が崩壊するのは確実。

その理由を挙げ詳しく説明している。

そもそも EU の目的は欧州各国の財政、金融、安全の統合による大ヨーロッパ連合であった。

28 各国が一国単位でアメリカをはじめ世界を相手にするより GDP、市場規模、人口においてもアメリカをはるかに凌ぐ EU 共同体として競合した方が有利だと言う御もつともなうたい文句でかつての自由主義陣営とソ連崩壊（1991）後独立した共産主義陣営から呼び込んだ。

2000 年ユーロが EU の共通通貨として発足してから 16 年 EU 加盟国 28 か国中 19 各国が従来の自国通貨を捨てユーロに切り替えた。

ユーロ採用 19 各国の経済規模、生産性、競争力等経済力はドイツをトップに最低のギリシャに至るまで段階的に異なる。

異なる経済力の国々が同じ購買力の通貨を使えば弱い経済国の資産がバブル化するので一見好況になったとの錯覚に陥る。

この錯覚状態がユーロ発足の 2000 年から 10 年続いた。

ギリシャ製とドイツ製の冷蔵庫が同じユーロ価格で表示されていれば誰でもドイツ製を買うのでドイツの貿易黒字増大、ギリシャの貿易赤字増大が続いた。

2010 年になるとギリシャを皮切りにスペイン、アイルランド、ポーランド等南欧で不動産バブルが崩壊し資産価値がユーロ採用時の価値にまで下がったので不況に陥り、ギリシャのデフォルト騒ぎに見られるように、赤字国債が払えなくなった。

ギリシャやその他にデフォルトされては EU 創立の化けの皮が剥がれるので IMF の協力まで得て救済した。

EU において英国はドイツに次ぐ大国で EU 滞在中ドイツより高い成長を遂げてきたので EU のメリットを最も多く享受した国である。

最早長居は無用、EU にさようならをして、今度は中国にメリットを求めようというのが Brexit の真の動機である。

EU が目指した通貨統合は弱小国をバブル化して資産を奪い、弱小国を財政破綻に追い込んで緊縮財政の圧力で財政支配、つまり弱小国の経済主権を奪い強国の利益にするのが本来の狙い。

ギリシャの財政破綻と Brexit で EU という名の世紀の略奪イベントの魂胆が明々白々になったのでこれで EU も幕引き。

日本企業は EU から撤退、手持ちの偽札同様のユーロを叩き売ること。

詳しくは「小冊子」(Vol.80) ご参照あれ。

増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中！

1ヶ月わずか約¥1,000！ご契約は1年単位になります

現在大好評配信中！「目からウロコのインターネット・セミナー」！視聴期間はお申込み翌月より12ヶ月となりますのでお申込み月は無料でご視聴頂けます。1か月の平均配信回数は4～6回になります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (Tel: 03 3955-6686、HP: www.chokugen.com) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3955-6466) までお知らせ下さい。